



▲毎年恒例となった茶摘みの風景。今年も美味しいお茶ができました。

高泊小学校 茶摘み

春の陽気に包まれた5月7日、今年も高泊小学校で茶摘みが行われました。茶畑では、^{はっぴ}法被と^{かすり}緋の衣装を身にまとった6年生が、初めて茶摘みを体験する1年生に優しく教えてあげる場面も見られました。自分たちの手で摘み取ったお茶。きっと、何よりも美味しい一杯になることでしょうね。



▲金本さん（中央）はうれしい初優勝、是木さん（右）は貫録の6大会連続優勝です。

優勝おめでとうございます

5月12日、山口県維新百年記念公園陸上競技場で第40回山口県アイリンピック大会が開催されました。本市みつば園の^{これきすえびこ}是木末彦さんと^{かねもと きよみ}みつば園の金本清美さんが、ロードレース競技において男子の部・女子の部でそれぞれ優勝の栄誉に輝き、うれしい報告となりました。次の大会も、優勝の報告を期待して待っていますよ！

夢
いっぱい!

菜の花の小さな花びらに 託した大きな想い



「菜の花プロジェクト」を推進する
障がい者支援 NPO 法人芙蓉会代表

すえなが ひろし
末永 浩 さん

小野田駅東の不二輸送機工業(株)の裏手に広がる、約1ヘクタールの菜の花畑は、昨年、市内の障がい者支援 NPO 法人芙蓉会の呼びかけによりスタートした、「菜の花プロジェクト」活動の賜物です。障がい者とボランティアの人達で蒔いた種は、冬の寒さにも負けることなく、たくさんの可愛らしい花を咲かせました。

「菜の花プロジェクト」とは、この菜の花から菜種油を精製・販売し、障がい者の自立を支援しようという試みで、使用済の廃油は回収し、ディーゼルエンジン用の燃料として再利用する予定です。「障がいを持つ人が、労働を通じて賃金を得るだけでなく、社会にも貢献できること。それが真の自立への第一歩だと思うんです。」と話す芙蓉会代表の末永さんは、自身も畑に立ち、菜の花の育成に尽力されました。障がいを持っていても、適材適所を心がけることで、その人の能力が必ず発揮できるはずとの考えのもと、油を入れるビンやラベルのデザインにいたるまで、製品完成までの全工程を障がい者と共に行っています。「畑の土地も不二輸送機さんから無償で貸していただいております。」との言葉どおり、資金面でもぎりぎりの中、6月下旬～7月初旬に完成予定の製品をどこで販売するのか等、早急に解決すべき問題もありますが、「将来的には、市内の休耕田を菜の花畑に変えて、菜種油を市の名産品にしていけたらいいですね。」と、笑顔で夢を語ってくれました。

末永さんが蒔いた「菜の花プロジェクト」という名の種も、実際の菜の花に負けないくらい素敵な花を咲かせてくれそうです。



▲松井製陶所内に設置された製油装置と菜種